

NTTコミュニケーションズ

仮想化技術を活用したクラウド時代の OCNホスティングサービス「メール&ウェブPro2」

ホスティングサービスの潮流

インターネットのブロードバンド化が進み、社会インフラとして定着するに連れて、企業におけるメールサーバやウェブサーバの運用アウトソーシングが進展している。その目的の多くは、運用コスト・負担を軽減するとともに、インフラとしての高い信頼性や機能、品質、快適さを確保するためである。

これに呼応して、サービスプロバイダも様々なホスティングサービスを充実させてきた。これまでの主流は、1台のサーバを複数のユーザーで利用する共用型サーバサービスと、1台のサーバを自社だけで利用する専用型サーバサービスだった。

しかし、共用型サーバサービスは複数のユーザーでサーバを共用しているため、低額での利用が可能だが、他のユーザーの影響を受けやすく、カスタマイズの自由度も低い。一方、専用型サーバサービスは、他のユーザーの影響を受けにくくカスタマイズの自由度も高いが、共用型に比べ高額でユーザーの運用負担が大きい。これらの問題を解決すべく、近年、いわば両者の“いいとこどり”ともいえる中間的なメニュー「仮想専用サーバ（Virtual Private Server：VPS）サービス」の利用が進んでいる。

は、共用サーバでありながら、利用者ごとに独立してOS、プロセスが動作するため、あたかも専用サーバのように利用できることである。

NTTコミュニケーションズでは、仮想専用サーバサービスとして、OCNホスティングサービス「メール&ウェブPro」を業界に先駆け提供している。

「メール&ウェブProは、『フェアシェアスケジューリング』技術により、CPUやメモリといったサーバリソースを同一サーバ内の複数のユーザーに対して平等に振り分け、またサーバ混雑時は余剰リソースを振り分ける機能も備えているため、負荷を効率良く分散し、ストレスなく利用できるのが特長です。」（NTTコミュニケーションズ(株)ブロードバンドIP事業部VoIPサービス部担当部長 五十嵐彰彦氏）

このように「メール&ウェブPro」では、サーバリソース配分をコントロールする仮想専用サーバ技術により、他のユーザーの影響を受けにくい、安定した利用環境を実現することが可能である（図1参照）。

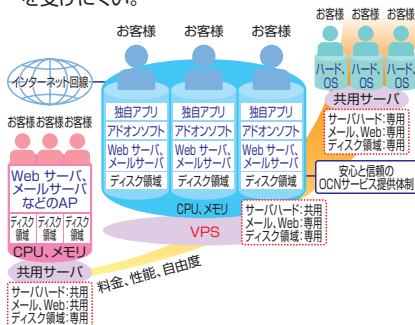
また、用途に応じて柔軟にサーバをカスタマイズできることも「メール&ウェブPro」の大きな特長である。

安定した利用環境と 自由度の高いカスタマイズ性

仮想専用サーバサービスの特長

◆仮想専用サーバ

プロセス（メール、ウェブサーバ）がユーザー毎に独立して動作するので、他のユーザーの影響を受けにくい。



◆フェアシェアスケジューリング

サーバリソースを同一サーバのユーザーに対して平等に振り分け、他のユーザーの影響を受けにくい。

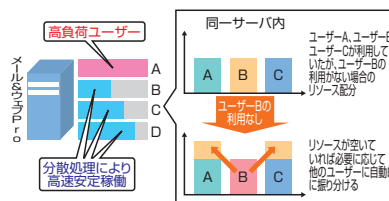


図1 OCNの仮想専用サーバ（VPS）の特長

「メール&ウェブProでは、サーバの管理者（Root）機能を提供しています。これにより管理者としてサーバにアクセスできるため、ログ解析ツールやデータベースといった私どもが用意したアプリケーションだけでなく、ユーザーが利用したいアプリケーションを自由にインストール／カスタマイズすることができ、業務内容に合わせた様々なサイトが運用できます。」（NTTコミュニケーションズ(株)ブロードバンドIP事業部 VoIPサービス部 担当課長 八木秀俊氏）

更なるスケーラビリティ、柔軟性を備えた新VPSサービスと今後の展開

NTTコミュニケーションズでは、OCNホスティングサービスの新たなラインナップとして、業界最大規模の40GBから最大200GBの大容量ディスクスペースが利用できる「メール&ウェブPro2」を2009年1月に提供開始予定である。メール&ウェブPro2のサーバOSにはRed Hat Enterprise Linuxを採用し、利用できるアプリケーションの幅が広が

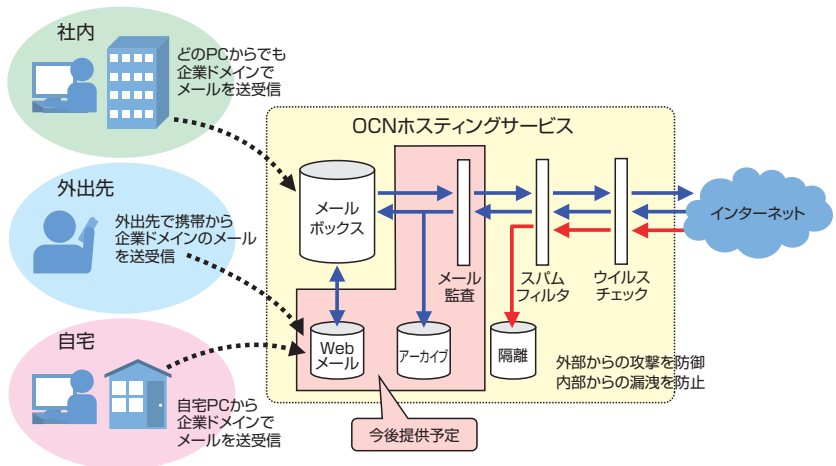


図2 付加価値を付けるサービスラインナップの拡充：メール高度化

り、導入も容易になる。

さらに、同社では、仮想化技術を活用し、より高品質で柔軟なホスティングサービスの充実を目指して、様々な取組みを進めている。

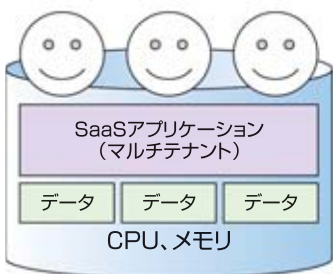
まず、メール&ウェブPro2のオプションサービスの拡充として、メール機能を高度化していく。既にオプションサービスとして提供しているウイルスチェックサービスや迷惑メールフィルタリングサービス等のセキュリティサービスに加え、今後、送受信されるメールを監査したり、蓄積した過去のメールから特定のメ

ールを簡易に検索できるメール監査・アーカイブ機能や、社外からも安全に社内メールを利用できるWebメールサービスを提供予定だ（図2参照）。これにより、ユーザー企業の様々な利用シーンに対応した、ICTサービスのワンストップ提供を強化していく。

加えて仮想化技術を用いたSaaS対応も強化していく予定だ（図3参照）。仮想化技術により、マルチテナント化されていないアプリケーションもそのままの形でSaaS的に提供することが可能となる。

今後も、高い信頼性と柔軟性に加え、先進的な技術の導入により、ますます進化していくOCNホスティングサービスから目が離せない。

◆マルチテナントアプリケーションの利用
SaaSアプリケーション自体がASP提供モデルに沿ったデザイン・設計である必要がある。



◆VPSの利用
ユーザーが導入したい市販アプリケーションをそのままの形でSaaS的に提供可能。

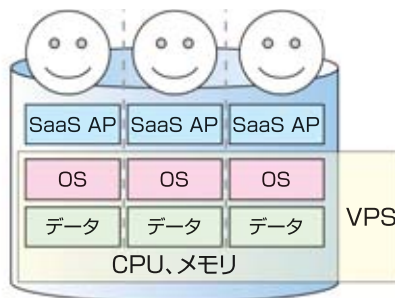


図3 既存アプリケーションを仮想化技術でSaaS化

<お問い合わせ先>

NTTコミュニケーションズ(株)
ブロードバンドIP事業
VoIPサービス部 ホスティング担当
TEL：03-6700-8679
E-mail：host-plan-bb@ntt.com